無政府共産党事件をめぐって

―自協側からの白井との対談―

江西一三

の批判 田の競馬場で半日語りあった。あの事件をどうみるかと 大阪にきた白井君(いま日本自協史を書いている)と園 けにあの海燕版の本に 問点がある。自分としては、 う僕らの解釈だ。 なぞ がイオムに出た機会に、五月二〇日競馬の仕事 0) 日本無政府共産党事件につい はふに落ちない点があ 戦後の相沢 ては を知 対っているだ る。宮崎君 6

E(江西) S(白井)

ハなぜ批判するか?>

の時に、イオムの連中から『あの党をどうみるか』とその現在的意味をめぐって」と銘打った11・9の集会それをどう君はみるかだ、昨年大阪の相沢の講演会「宮崎君がイオムに『無政府共産党の批判』を書いた。

が。

ても彼らの運動には何も言いたくないねと答えたのだても彼らの運動には何も言いたくないねと答えたのだとがあるので、党の実体は別として何といま理由づけ問われたが、戦後の日労会議で相沢と一緒にやったと

老のだが、その意味はわかるだろう。 というというといいとが、その意味はわかるだろう。 といい レジメとか、イオムの講演記録からテープまでとか、レジメとか、イオムの講演記録からテープまで

美化して戦前のアナ系運動の総括だとみるのは、君とめら二見と相沢のやったことについては触れたが、客観的にあの党がなんであったかは別の問題だ。あれは一九三○年代の革命運動の一つの試行錯誤にしても少しヒドすぎる。それがまだはたせなくて。党事件についすまない。それがまだはたせなくて。党事件についすまない。それがまだはたせなくて。党事件につい

てき 最後 な 5 らとともに 関するもの から te カン 聞 後 あ To その 頃どと るが ま たので拾い読 2 崎 5 0 0 To 君に た。 た 時 日 西 立場は違うようだ。 、大体は 0 労 VC 入獄した。 二·三年前 かであ は多少の を全部 会議で 農青社運動で出 5 逸見 な ま手元にある戦前 る ・佐竹君ら みし って まとめるとなると厖大な量に の君らの相沢 僕らが考えて 面識がある。日 つい 発行 た。われわ いる。が自協とは 新聞人連盟を たり入 L の暴露斗争の としてはやり 江 た農青 との苦い 動きに 一〇時間 逸見の古 ・戦後の彼らの 5 たも n 2 と近 社運 たり やっ 立争 0 2 関係が 5 動 T 議 経 経 L ٢ 5 っ切 で高 ところもあ 過 同じ かけ 0 た 5 験 T 5 本 0 7 \$ 0 + を送 東京に 橋光吉 実体に な 15 日労の は す だ ナ T 16 かっつ る。 った ープ 収録 2 VC か 0

E

斗わ は君が ٤ ざるを得ないプロ いう感じた て大正の終 革 で、戦争をはさんで工場にもぐった 命家を 黒旗の下 。僕は わりから労働運動一 自称するイ VC 第 V 第五号 小学校をやっと出 ・ンテ 0 " リじ 5 編 集 う表現が 筋に五〇年 ゃあ 後記 たぐら な VC 5 + 0 E N to

> 5 5 と思っ 0 5 . 0 いも てい 、とれ うい 0 意味 る。 ょ まの組合運動は企業と体 12 5 より他に うな解放運 よいなのかか 6残り少なくない 生き方がない えっ つて 動 2 自分で しして なっ 0 ない 制 0 てき でとと に組 か ま み入 to とめた まで じられ 0 で n 专

立場から少し話 は それはそれ 宮崎君 0 として、 あ 配しあって 0 批 判 ح から みた うして 出 左 5 0 を機会に 君と会っ と思うの だが た わのれだ わか 5 n 0 4

S る とある。 「それは背中と腹の府共産党であり、他のひとつ 宮崎君はあの本のパ ることがわ 、 あ 0 党をまだアナ れわれ 運動はふた とは少し は とつは つあ じめ + ズ ズム革命運動の一つとみての関係にある」と言ってい 違う。 "VC った。 農青 -社運 一九 ひとつは日 元三〇年代の 動 であ 0 本 無政のア to _

府共産 + 」としているがそうだろうか、そこが問題だ。アナ あの海燕書房版に解説を書いている蓮 ムからの ズムか 党が党の構成員に 6 出発していることも紛れもない事実であ 別の次元からの出発かというと においても 心情に 台寺君も な いて B -7

<マボロシだから幻の党なんだ>

T ら非 から出 アナ的なもの ルだとか と君 発 L 0 て非 人 の転化 アナに 絶対に無政府主義に 0 11 かとい なった ながれ 衷主義 あの党を批 ルに書 うととだね。 という意味か、 "で"アナキ 非ずル 5 レてッア ていたね とかいっ ズ ナキ A 初 運 かァ 動

しさだ To 当 調書とい の戦略戦術 割引 党なん カン 相 n を後に 。裁判記録は 6 当 だ。だ 時の ね。あの党のことを幻の党などと呼ん # 違 て、その した して考える余地がある。そこが歴 0 T う体制側の書類だけで再構成し残っている文献だとか、あるい 戦 た 側に残 から誰も を都合よく揃 村 線とは関係のない小グルー ものになる から 燕版の内 実像が 残 つてい 自 って 知 。まあ なんで 連 5 5 えて、暗 たので た「党 は出 合 容は『構造 - K あった 本人のあとから テ 書 to 『史談裁 い汚 5 から た「黒旗 - K 5 かということと 幻の党 5 プの動 面を切 相沢 判 史の て造 は新 」は 7 きだ V る像と は から 2 5 to 0 單 説明 9 4 破 7 5 To づか 記 n う 0 no 事

> をどと ときの話 と裏とは だけではないか。」「ではアナキストは真実はインテリを拒絶して斗ったプロレ 本第三部 日共などソ連帝国主義 も自己弁護とことさらの理論づけだ。極端にい to 表面 ٢ して ・戦術といってもレー めに大きくフレームアッ うが をとりつくろって書いて いは 5 な はその検挙 うととろである。インテ 別も るが、 しの「共産党は戦前何をやった 隊の域を余り出 5 日本 アナだポ 。その一端は荒畑のものにもでてい かと のだ。そこが故神山茂夫と最后に 共産党史だ 権力側よりも数段幼稚 5 をさも う問題だ。 ル だという分化以前 の東洋コミンテルンがや っていない って ニン・スター 大事件のように、手柄 ブをするし、関係者 いるが、実体は 現在その「もの IJ とも · 主義者 リニズムで色揚 5 ・稚拙でその表 タリアの 5 える。そ 0 何を 斗 やっ う そん 革 0 会 0 えば、 0 VC るが。 原 命 To た日 4 だ った 0 自 する 0 争 ?

つけられてきたがこれはやり切れないことだ。社会主義陣営も、みなそのことを俺は嫌ほど一生みせいま総評でも「たてまえ」と内実とは別だ、政党も

目 T 0 2 それ 警保局 n 的 す 無政府共產党事件 · K は 綱領 0 5 焼き直 料化 主として相沢 VC \$ しとみら 拠る「社会運動の状況」(以下 党の (以下無共党事件と略す)につい 裁をとってい n の自供によるものと思うが ·運動方 る 針 るがどうも共産党 から 載 って 5 資料と る。

S

は別 一す る」として掲げ その 定の条件の 0 11 十項目 綱領と 党 テー 下 世 5 6 にお うの T いる八 0 最后の は八 5 て実現すると主張するもの 項目 項 部 Ħ 分 で である。テー 0 海燕版 「そしてと (以下本 ゼ とい の理 と略 5 であ 想を 0

-資本制の廃 止

=, 議会の解散

八才以 上の男女に選 挙権の獲得

言論・ 出 版 ・集会 ・結社の自由

五、 一切 金低 0 労働者農民暴圧諸法令 によらざる労働 時 間 0 0 短縮 撤 廃

七、 政 下 資本家負 担 の失業保険

地 無償 ٤ 產資本飯 * の国

庫負

担

資 本 家地主の負 担

危機に対する斗争

ある 0 4 リアの戦略 . 戦術 一の末尾

> E S テー VC あるスローガン二六項目とは別のものである。 実党があ と、そ そんなテー 0 0 たのなら本は VC あ った テー その全貌 ね。本にある無共党 を明らかにし

いう作文はあった。 は相沢が作文したものが の出 かった 出 出 みせ さな るまで作文した L かけ 0 カン T いる カン った る 专 のか To めの のは た。がそれ なぜ物語 自分自身も忘れていた ? フレー だ 作文だった 大変なア った だけに は かも知 ムアッ 機能 ナの して プ、それにあわせて から権力側の資 n to ない。確かにそう 陰謀だ 0 いなか か? 0 カン 0 「資料 ? った to と権 料 カン 5 カ

なきもの より 十項目 は よ ない うに あの本 VC いうも \$ カン 実 T がそれだろう。どうもあ 沢 ? 際の 0 -六 5 をも テー が書 のだ 回中央委員会におい 党テー 九年九月にパンフレ ·党規約 せとい 3 5 0 てその 村のも た物語 う。だからテー う)等を決定せ ゼとい うのは、 (国際共産 運動方針 0 0 も物 うようなものではな で都 宮崎 て党綱 合の悪 の本は歴史資料 党規約 を y 6 6 ゼは別 発表 君も指 だ。資料は 領 5 (表題も署名も にあ \$ せるが、と 草案を参 · 及び 摘し 0 って綱領 は ってあの 一九 九 全 という 5 T 0 年九 5 部 資 でる

のた 銀行 ても 5 0 文化などにつながった 植村 獲得 運動の 5 to の神戸港に る めて のは当然だ る。それから 崎で検挙されて党が カン このための が、あ 括だと めに互 もあ 実際に運 # 0 相沢 + ためというより ング 。九月二六日 0 S 事件 0 704 お 0 立動にいた ける相沢 った 盲 フ , 芝原虐 下宿先の本郷弥生 を美 T T カン 動だ いろいろ事件 y + ば 化し 1 + 5 ったとみられる \$ 3 文学青年 追いつめられ 殺、 あ に特高は 探索されていることが彼らに ズム運 の検挙まで って、 て物語 時代の 0 カン その他い 5 動 が起った。十一月 みれ 試行 戦前 って 一町の鈴 相沢 が、陰に陽に の一環だと見 。結果 ば全くふ のアナキ 5 節 た二人 ・二見 錯誤であ がある 木館 3 る 。そ から 5 3 から を探 を で落ち ズム運 逃走資 自 n 0) 検 0 せ 4 を解 相沢 ると、 0 挙す 己弁護 2 九 カン ٤ H L 15 金 H 3 T 動 放 \$ は T

E

が相沢の

記憶に

よるも

0

ゼの

方は押収

され なり

To)と断

実物が

あるはず

であ

記憶に

よるも

0

6

書きが

してあ

3

ゼ等を掲げ、規約だけは(本規約は入手得ざる為相

参

L

ている

ということに

なると、吉っち のとして、共産党規約

P

2

0

0

てい 考と 規約 で、テ 尚夫の

るように

相沢

の背後に早稲田

一の青

共の

から 言 を る

b

0

男

が

5

たということも肯けるね。規約の

問題に 僧侶あ

0

S

ても

あの

本の七八頁

で相沢

が書いた

一入

江

の草案

を

党への願望はイデオロギスト特有の心理>

中と腹だという関係は、そうみられるかね。 木・宮崎君らの農青社運動と対比してどうかね

ナキズムの内側の問題だと思うね。なぜとう見るか 5 うと、 僕は無共党はアナキズムの外のものだ。農青社は 最近 マルクス主義は修正アナキズムだとい ア

記 ٤ る ので 憶に を訂 どうも L 正してい云うまで よって警視庁特高がまとめた党規約が T 5 to すっきりし 0 ないの カン \$ L ない n \$ は なく正 おか ぬと思 作 としい 為 心う」とポ が感じら 確を欠く」としてい 。本の註 カ れるね。 7 して 載 は いる 0 一私 7 る 50 5

<実態は逃走のための行動 V

S

ろとおよそ非アナ的な嫌なものが出てくる。一見・ の女 事件そのものを他の資料でトレースすると、い の問 会にしよう。 題、浅倉 トクノの 問題などが。 が、それ 3 は 5

検挙の あの て、一〇年夏に自連新聞の発行人だった山口安二が 発端だった。あれが特高の入手するととろとな 党テー ゼという幻のパンフが実はこの党事件の

面白い見方が では う題 の長 尾竜 でル 一という助教授が 出た いてい ね。中央公論の五月号に東大の法哲 への衝動は休火山 「アナキズムと現代」と で あっ T 死火

名を連ね は安易 とマ 0 な なら、あの党もアナキズムの変種だといえるかもしれ それでもそれが広義のアナキズムの修正主義だといの党派性(ブルジョア性)の産物以外にないのだが 0 階級のインテリの敗北思想だと思う。「共産党僕はマルクスとは、パリコミューンで挫折し が、いま では別 とし バクー いが 3 ルクス主義との区別だろう。その意味のアナキ 1 。が一般にいうアナ て、中間 ロッパの文明世界からみた考え方だ。権力の走 な進化論、生産力の発展主義、それは十八 ものだろう。ところでなぜ田所があんな党に ニン、クロポトキン、マラテスタなどの系列 ていたのだろう。 いうアナかボルかということは、十八世紀 階級と L ての知識人が権力を握るた 1+ の分野 に党は入らない。 宣言 世 ズ 5 80

S その話は相沢が大阪の会で自協に触れたところがあるのでそこで少し詳しく触れてみよう。が無共党と農るのでそこで少し詳しく触れてみよう。が無共党と農

だ。コミュー 社会主義に進む 会 から ウ 術の問題だ。マルクスは晩年は議会主義的だ 力でもぎとるか 証しようとし ばくる。これは必然だということを資本論その他で との革命 力の発展だ。だがそれ 人民の革命力だけでは ツキー へという考え方だ。 なかった。ともかく権力を握り、 ニンは暴力革命をとった。ロシアではそれ は、党をつくって政権を奪う。生産力をた と自 の社会民主主義はそのド こます。議会制度のもとで権力を握るか、こく。て政権を奪う。生産力をたかめて た逃げの ンの社会は必ずくる。生産力が伸長す ? ・平等の要求か これ 哲学だ。それ だけでは人民革 成功しない。だから問 はその情況 らの逃げ方が イツ的 国家権力で共産 VC までの中間階級 応じた 命 な展 の否定にな たった。 カ より方 開 戦 だ。レ 題な 略 ・戦 立 n 0

すぎず、キリスト ってい 5 れは から相沢のテーゼという新運動方針が共産党理論に し、同じ党組織を真似し、目的 るが、科学でも真理でもなく 経済学だ、哲学 した ても不思議でない。イ マル の福音思想と同じだ。アナの クスやレーニンと同じ だ、歴史観だ ただ は権力と国 ンテリ と難 1-0 しい だ 敗 0 2 カン 家 5 観念論 教 ٤ 北 ね。 思想 の廃 義 を VC

だ。 ボルに転落して黒シャツを着て黒旗をもっているだけ 止だといってもそれはマルクスもいっている。中味は

くことはたやすいのだ。だから鈴木君にしても宮崎君にしてもその矛盾を突

<農青の革命性と限界>

- 内だという根はどこにあるか?農商でも鈴木・宮崎が違い、そしてその農政がなお枠農青でも鈴木・宮崎が違い、そしてその農政がなお枠
- 5のなら平等と自由・即ち革命の否定になる。 生産力・科学文明が大発展しないと革命は駄目だとい 義と異なるところがある。革命の目的は平等と自由だ。 が革命の条件と必ずしも考えないところにマルクス主

いう官僚中間階級が抑えこんだから中国の三千年の歴 歴代の王朝はみな農民革命で倒れた。その都度儒者と 収用とい たとえば中国革命をどうみるか。秦の始皇帝以来、 った。毛沢 T 毛沢東を売りつづけたのである。それ う古いパター ンはアメリ 東 0 革命 ンの革命方法で成功したの カ・英と取引して蔣介石の 0 成功は、一揆 ・暴動 はソ 土 で

連という帝国主義を露わにしている。

は反革命 行 運動も 体とし は岩佐 岩佐は な特徴であ につい 農青 自 知 て、その点サンジカリズムに代表される都市のと同系の地主出身のインテリだ。宮崎は農工一 農村中地主 は農民革命の方式だ。鈴木の自治民 的 て」をみると「大都会は結局焼却する、そ ってい コミュー る。 な巣窟になるから」というところは実践 るが、 からともに都 ンの方式だ。八太は 彼の「吾が 市的で 国における革命の完 な キリ 5 ン ト 0 約 が は 教 全 鈴木 から革 的 n

- S あの昭 島国で国が狭くては革命軍の逃げ場所がない。 戦術は中国やインドシナでは成功したが日本のように ず農村を占領し、都市は熟 して落とす。これ がこの戦 が甘すぎる。だから極左冒険主義だともいえ 州で暴動を起せば全国が呼応するというのは 略はある条件では 和六年の時点で、農村は疲弊の極にあ は秀吉 の水攻の方式だ。毛の 柿が落ちるようにジリ貧に 唯一の人民革命方式だ。ま ゲリ った る。 情勢 ラ

パの一角だったからだ。チリの民主的議会革命が潰れ も、またスペイ 農青 のもアメリカに近すぎて大陸の一角だったからだ。 革命が起きなかったのもその理由だ。ヨー 駄目だ。フランス・ドイツの革命が実らなか は戦略の適用は間違 のはその理由だ。二千年来日本で真 つぶ っていたが革命的 n たのもそれは ・ロッパで 1 ではある。 っった " 0

の差はインテリとプロレタリアの差ではないか。点で、同じ農青でも戦後の歩みをみると、鈴木と宮崎ということは原理的にアナキスト革命ではある。このと明らことは原理的にアナキスト革命ではある。との農青は戦略の適用は間違っていたが革命的ではある。

確かだ。八太は科学・知識を否定して原始に還れといアナ系の革命が生産力の発展だけに頼らないことは の考えた戦略は特徴があるね。だけど彼らはあの時点 展させ、その変化の線上に あ つく でなぜあんな実現不可能なことを「革命の完行 うようなことをいっていた るがその計 フレー にし できた 爆破するというのがある、これ 4 た アップであるが、ともかく文章の上 のだろう。農青の検挙は無共党事件につ のであろう。 をみると、軍隊から武 農青もあったとすると農青 と思うが、そ 器・爆薬をと の考え方を発 ゆえフレ 」など 一では

S そこが観念論の弱味だ。革命家は理論によって計

きしてしまう。
- が先行し、理論が観念の分野で現実を離れて独り歩は革命家、職業的革命家になってしまう。イデオロギをたて、同志を集めて実行する。結局イデオロギスト

<総連盟の提案とその影響>

S そこが E 僕が猿江 日常斗争をやっていたがどうもうまくいかく自己批 れからどうにもならないので戦時中工場へ潜 だが、一時逸見の吉っちゃんのところに身を寄 君は猿江に残っていたので事情は知っているだろう。 の気運が起って、また自連も初歩から出 東京ガス社外工争議のあと大阪へ帰り、僕は昭和七 合同したといっているがあれはどうなのか? その点 からないのだが。相沢の大阪の会で、自協について、 った。だからあの自連と自協の合同への動きはよくわ 0 煙突戦術を解決するために競馬の編集を電話 め日染の第二次争譲で、せっかく争譲の解 相沢の見方と逆なんだ。君が昭和七年の終り へ行って一年半、この争議を解決して 、日染争議の千葉浩の英雄的な滞空十四日 の斗争を離れて関西へ帰ったのは昭 消費でつくった組合を踏みつぶされ 直そうとして 0 和八 7 一本で た。 決斗 L 年 判

いろと変名になっているがあれは僕の仕事だった。は生活のために、もとの古巣へ頭を下げて競馬へ帰るは止むを得なかったが、妻や子供を抱えて生きていくためには止むを得なかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗のうできなかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗のうできなかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗のうできなかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗のうできなかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗のうできなかったから、学術研究誌と銘打って「黒旗の

その創刊号で僕は組合運動について画期的な方向転をおるして、倒刊号で僕は組合運動について画期的な方向転割であるした。自由連合の旗をおろして、組合はインに連絡を取りながら組合内におりて斗いのへがは互いに連絡を取りながら組合内におりて斗いのへがは互いに連絡を取りながら組合内におりて斗いのへがは互いに連絡を取りながら組合内におりて意識分子にある。

のは。

- れられなかったのだね。 とれが様々な波紋を投げ君の提言は戦線から受け入
- 自由連合の旗を下ろしイデオロギーを捨てろとは何事が働組合が権力側の手によって潰滅されそうなとき、 のまこの おはアナサンの理論的な論戦を張りながら、いまこの

意味だったと記憶している。(註) 石川老までヘゲモニーとはアナ的ではなくボル的だ、だ、改良主義に後退するのか!! ということだった。

"(四号)八・二・五「日本自協内部の動向について」「黒旗の下に」(二号)七年十月五日山田建介の「再提言」

山下春雄(白井)

「自由連合主義とへゲモニー」 (五号)八・三・五「新動向に反対す」山田建介

E それだね、相沢が自協の自己批判だとかいっている石川三四郎

S そのようだ。だが当時の日本をめぐる情勢はいよいよ戦時体制に突入する前夜だった。六年の九月に満州建国、一月に井上準之助の暗殺、五・一五で犬養が殺され、二月に井上準之助の暗殺、五・一五で犬養が殺され、二月に井上準之助の暗殺、五・一五で犬養が殺され、こういう時にはアナもボルも組合では旗をおろして団とういう時にはアナもボルも組合では旗をおろして団とういう時にはアナもボルも組合では旗をおろして団とういう時にはアナもボルも組合では旗をおろして団とういう時にはアナもボルも組合では旗をおろして団というには、ともかくサンジカさえ残っていればそれが決定に、ともかくサンジカさえ残っていればそれが決定に、ともかくサンジカさえ残っていればそれが決定に、ともかくサンジカさえ残っている。

協で僕の提言をめぐって討論が起きるのは当然のこと く組 組 る。その頃その危機感は旧自連側に一層ひどかった。 て盛 論と遊離してしまい、この連中はどし難いというので の八・九号までと「戦確ニュース」の一部は 誤りではな で予期していたことだったが、その後の動きが次第に おり活動していたのは自協だけだった。だから僕は自 論総同盟系に いアナ戦線内の合同問題に終始して組合運動の展開 合としては旧自連は始んど潰滅していて戦斗力はな の先鞭をつけようというので戦線確立研究会を作っ に動かすの ではと、僕が猿江を去る理由の一部になった。八 んに合同を持ちかけた。いまでも「黒旗の下に」 合活動も い。実は戦線の拡大論なのだ。中立系は勿 してい がわれ 自 も入っていかねばならぬという戦術だ。 協も自 なかった。当時は君も われの任務だという戦略は絶対に 連も一緒になって脱イデオ 知ってのと 残っ てい ロギ

後半の動きだ。

か。はりサンジカリズムのアミアン綱領は正しいのだろうれ以外の動き方はない訳だが組合の組織論としてはやが占めるかのヘゲモニーの問題だ。いまからみればそ

自 だったといえよう。相沢 自協・自連の合同にも反対の流 の傾向が強かった。 0 0 うでもあるしそうで いる。これを誰が書 対する一考察」とい に」の六号 八年の二月。そしてこの連中は ルコ・サンジカリスト いというの T たがそれを党と考える潮流があ サンジカ 組織に いてもアナ系という共通項があれば共働できる 結 由連合新聞社」を伊藤・山口 うものではなかった。党というイ 動けばよい 成には参画した。がそれは、互いに は原則的に僕は 八八 は観念論者の仕事だ。自協のなかにも ・アミアン綱領・どれが正しい、正 とい ・四・一五 う考えであって、革命団 いた うの 田所は一般労働だけに ないようで 0 反対でなか 0) が斉藤生として一面にのって五)に「アナキスト総連盟に らが自由連合から独立して「 観念論者がいた。山 かはっきりしない。僕のよ もある。 2 イデオロギストだから れだった。「黒旗の下 ・梅本らと作ったのが たのも った メージではなかっ 連盟そのも 考え方は違っ カン から戦後連 かだ。 より実践派 田 しく 範囲 は アナ 盟 0

<田所はどこまで実態を知っていたか?

E あのグループの党の結成への経過がいまひとつはってはないか。

E 定。この 足させメンバーは相沢・二見・植村・・入江・寺尾の 連盟」と称した。九年の一月にこれを「党」とし 植村を尋ねた。十一月十三日に「日本無政府共産主義 第二部田所と決定。ざっとみるとこういう経過になる。 の責任者である。五月に寺尾除名。この月に梅本、伊 中央委とか中執とか称しているがみな前述の五名がそ 五名だった。 三月末に党員の採用方針、党員内規決定。 という時期はその頃だ。十一月に二見・相沢・寺尾が の四月に二見が入江・寺尾と組んで「黒色テロリスト 一月だ。自由連合新聞の独立が二月。資料によるとそ 盟」と称した。相沢が本にある二見・寺尾と会 田所が ・自協の合同が三月。党の機関決定四月。この頃 協が自連に対して「戦確」を提議し 所 が参 時に 加したのは九年の五月か。君が猿江を去っ 加わる。九月に党綱領、規約、テーゼを 関東地方委員会を開いて労働第一部 たのが八 て発 梅 った 本 決

5 九年の二月に猿江を去り、高橋君も柳島のたのはいつだった?

S 九年の二月に猿江を去り、高橋君も柳島の共働社(

S ない。 知 は何も書きたくない)と書いたのはその模様を政子が がれ」(政子との手紙集)に田所が捕えられ かはさだ 6 激論は政子の目の前でやったのだと思う。だから 年の暮に離脱の肚をきめたのだと思う。この田所と 強いからいかに同志が要求しても首肯しなければ L 八年の暮から九年の一月だろう。その前に田所と激 であろう。イデオ な手紙を書いた。11/19~ っていた て不愉快な別れ方をした。知っ いよいよ猿江を去る、解散することを決意したの 戦線を離れる。その激論の議題がなんであ かでない からだ。 ロギス が組合の方向転換と総連盟について トと一線を画しているので ××(田所については ての通 り僕は個性 た時 VC った 同じ あ な 0 八 から 論

■ 総連盟の提唱が党に変貌したのだろうか?

いうイデオロギーに取りつかれていた。だから僕は漸というような認識だからアナルコ・サンジカリズムと風雪を越えて」で書いているように『親組合へ還った』風雪を越えて」で書いているように『親組合へ還った』

というよりも戦線内のアセリがあったと思う。次離れていった。田所もその点は、イデオロギー寄り

を 6 T え方な E 実践して \$ いた。現実に僕は他の戦線との共斗は大阪でも との共斗 経験はしな 0 立. (影響力 で、あ も自協としては辞せずという原則論に せず中間派と組 いたと思う。 かったが、江)を持 0 ファ " つべきだという ら労働組合運動は自由連合系 y んで戦線を拡げ、そとでへ 東で斗う以上田 時代に は 全協 サンジ 0 所 x カ はそ ンパ 江 立 的な 東 0

めにあ る が九 と田所が全協との理論斗争のためボルを引き込 あ 連中と共斗の るところをみると少なからず関係があったことは否 やつられ のテー n 年の九月に書いたといっている。これ だろう。田所 は を書 50 って てい についての特高資料がどこかに ゼという長文のパンフは田 田所があんな + いた ために たのか、その点の確証はよく 5 t のか たが。相沢が共産党の規約 ップの小西知円というお寺の 、逸見の吉っちゃん 接触してい した 党に賛成 のは て、田 L 梅本だとい 所 て参加した 所 が全協(ポ あると 0 0 から考え 5 要 を知 つか 息子に 望で う。戦 うよ to 0 って 吉 80 な た N 2 5

> の点彼は被害者だと思う。 所はアナ総連盟ぐらいに考えていたのではないか。そ確の関係で知ったのだろう。僕は梅本を知らない。田

△植村と相沢の違い✓

- になる。一九三○年代の若人 0) だ未解決だがアナーキとしての問題点を提 き点があるのだろうか。そして相沢 C の十五年戦争へ全住民を追 カン の試行錯誤があったにしてもその動機はなお恕すべ こうしてみるとあの党は一体何だ ? 5 た が革命を志しながら、あ てる天皇制 った 000 うように かというと 起し 0) 狂奔の 7 、ま 5 3 下

植村はとう自己批判している。

時の党の一人としてとの回想的自己批判を私は一アた。党にその力はなかったし、これら団体を指導すた。党にその力はなかったし、これら団体を指導すわれわれ無政府共産党がこれらアナ系の合法面の運

らい。 が相沢はなんらの自己批判も持ち合わせてい いの点では植村は少なくとも男らしく立派に筋が通っ 連ナキストとして戦後に自戒するものである。 い

T

しては ちゃん 9 5 僕は二見・ 5 n n は今日 は 5 た だだけで 同志とはいえないね。何 て、 人 が長々と話してくれた。二見と相沢 カン しす 間 で 5 相 \$ 0) ぎる、運動 カン よく 沢 違 誤 時 . わ にダラシ 5 9 知 植 ع C n ない らない。だがあ 村 5 わ ・入江に う n を口 ように が指 よ のないことを り他 実に。 向 を言っ 200 から した 思 な わ ては 0 方向 5 n たか やっ 党で 0 るの 一度 は はは、 た 大阪に 大筋と 後 で 金を借 ある か VC として 人 は な 間と あ 吉 0 L 0 た 6 T T

- 5 ただアナ系の結集を考えていただけでは 相沢は過渡期の問 だから を え切 の考 央集権 n え方に同調 なか った ٤ 題を実に安易に考えて カン のは して 資 人間的 いない。が委員長とし 金局・特 な弱さかね 務·軍事 ない 5 る 。植 機 カン と思 関 T ع 村
- ことやったことを知らなかった。党などを さだろうね 弱さ フ的と 。が植村も田所も二見や相沢の ろうね カン 。自分 5 って美 にないものを二見 化し 7 る。イ いっ 考えて ン 1/0 テ 4 T

だ。毛沢東が革命とは食うか食われ

だと述懐して

いるのは

本当だ。

権力の暴力に

は

T

る

いね。それでも植村は泣事をいっていないところは連中は彼らが何をやっていたか知らなかったのじゃいるがそれは二見・相沢・入江の三人の仕業だ。他

る一種 逆 -の 火が る。効果と が彼 には は プと H は狭義のアナキ で でない との つい アナ的 呼ん 書きまでつけて問題を提起して うことを僕は知っている。それ 行 らは学生あがり 原点にたつと出 は の爆 為は主義とも党とも全く のニヒルだ。だがこれ なく農青 てあ 6 ように過渡期の問 破グル カン か 5 だ。アナ思想だ 戦 らとい の九月以降やったこととは全く意味が違 る 略で とし 000 ズム 黒 1 とは関 T はなく自分の反逆を燃焼さ でやることが観念的に飛躍しすぎ てくる社会現象として う社会テロ う プを N 程度だろう。イ だ マスコミは 権 カン 係ない。その行 題だとか からとい は二見 力 らそうなるの は暴 関係 の一種であ いのない別 元・相沢が 5 党の アナ 力 が うととだが さるも だと る デオ キス 0 では みる る。 は 記長だなん 為は は 革 D かのことだ 卑怯だ 1: h 自 命 ギ ンフで べきだ なく反 明の グル 組 個 1 関 そ 織的 人 的 す 5 VC テ

東洋の知恵だ。が非暴力に宗教的ないを非暴力で貫いたのがガンジーだ。

人民がいかに斗うかは別の問題である。意義づけをするということと、支配を撤廃するためにそれは何千年来の東洋の知恵だ。が非暴力に宗教的な

現象、生の衡動である。だからアナー 工 カコ 強圧を加えれば簡単に変節するか、またはテロに 学的な空論には興味がない。現実は生きるた 革をやらざるを得ないのだ。 1) 0 だ。人民は革命後もエリー 類の生態現象だ。革命とは人類が生きるた 戦術だ。解放を期する労働者、農民はそん シ 休火山だという見方が出るのだ。 いつ非暴力 ナもそれを体験したからエ 目指す革命 ト論なら革命後 が人民 の目的 の暴 もエリ か らそれ 力に転化するか 1 トにはならない。過渡期 1) てしまう。中国も ト社会だ。それ イデオロギ 1 を一掃する大文 キは死火山 な形而 そ 80 20 では ストに 0 VC n 走る でな 生 斗 1 は 人 \mathcal{V} 態 う

ない。

<五人だけの党だ>

E とに党の摸索が 戦略としてポ 沢 はあ われ の大阪の会の結論として、その過渡期論 あ わ れの斗 り、まだ解 ルとアナの統一的 5 0 決 信条とはどこか違うと思 がつい な 他握を ていな てそ 5

> S 命 学によって石油 は との方法を否定するの 構築とか 学者 が必 命論の 理論を集大成して現 の、イ ず出る。その理 \$ テー 似たようなことを言っていた ね、僕はその ゼによっ 7 テ カン りの らピニール のがアナー 発想がおかし 仕 論は書斉で机 て革命運動を 事だ。 七〇年代の新 が産れるような 革命 キではない ح 上 やる 5 は新 で構築され と思う。 い革命 カン なら L \$? 5 分子 その 理論 のでは 工 る。 そ 1) る 14 n

平凡な > から 革命 ロシアの体験から 人民の声だ。 0 処方箋の実行 1 は困るのだ。ソル デー を捨てよと ジェニ いうの は 1 5 ッ 0

-30 -

国家

と権力、革命党の独裁が必要だというの

があ

0

5 革命の時がきたどき反革命の要素をどう退治するか? 斗ったのかという実感がした。 中間沢の過渡期論だろう。こんなことのために俺は一生

暴力 国で る。この革命権力を権力と呼ぶか別の名で呼ぶ で、軍隊でくる。フランコの例 \$ はこの反革命に ンド シナでも い。人民は戦士であることを否め 対する軍事力を人民が持 いまとれが をみれば明らか 課題だ。反革命 って かど ば だ 5

権的にというのだ。う。共産党はそれを党が握って党の指導下に、中央集う。共産党はそれを党が握って党の指導下に、中央集うでもよい。が、その実体はどこでも革命委員会だろ

ている。 一般は粛清されることは、ロシア、中国ではっきりし想だ。だがそれでは革命にアナキストは利用されて革無政府党でそれが解決できるか? ・共産党と同じ発

形で考えたのだろうか? そんなわかりきったことをあの時点でなぜ党という

S

沢と結び 共産連盟」と称した。まだこの時点で党という名称 二見も魅 思える。と 分離させた あったら トとの結合だ。そこで相沢の党構想とい 最初 スト えてみる必要がある。 T からひき入れ 八年四月の二見が入江 同盟というのは ない。 しい相沢だ。相沢が自由連合新聞を自 ついた。党へ動いてい してい 力を感じたのであろう。十一月 のは何 の相沢と二見 これが る。五 か意図があっての工作 てとの五人 九年一月三〇日にわず 掠屋の行き詰 人だけの党だ。との経 の結びつきが ・寺尾 で十五日 ったのは と結 ま テロ VC b 「無 に植村 では だ。とれ う秘密結社 青共と関係 んだ黒色テ ٤ 党プロ ない 過をよく か四五日 を解放 連 か から カン 1/ 9 ٤ 6 0) 相

△田所だけがまともにやろうとした♡

- おかいてあったね。党と宮崎君との関係はあったのかがかいてあったね。党と宮崎君との関係はあったのかりである。
- S 便箋にリンチをしたこと、銀行ギャ 長野か 人に依頼した……とあ 理由書を執筆し、これを宮崎の があ 当時の 区の ら東京へ侵入 る。パリンチの理由 朝日 尾久で宮崎晃を捕えたところ十一月二五日に 新聞(十二月二七日)の した二見と会い長 る。 * 一依頼され 手に より発表すべい 野 記事にとういう でし た男捕 た た わ れる す 80 < 同る VC
- S. ح は①芝淳が資金を集めながら党に廻わさず私消 ②武器提供 を 約しながら果さなかったこと からないね。ただ朝日によると芝淳 容は記者に 画をもらした形跡があること、と書 発表されたのだろう。 0) 1) ンチ 5 T あ L 0 る た
- は九月の鈴木館手入れ後のことで、わずか二ヶ月間の集めに事件を起したということになる。すべての事件を やはり実体のない〃党』のようだ。自分の逃走資金

まともにやろうとしていたのは田所だけじゃあな 5

士だっ 外工 起 0 5 草は おり 目にあった。ガス工では刑 で り本当に仕事を コッコッと仕上 など身を挺してストの 君と僕 江 自協の運動方針や情勢分析などは四 た。よく勉 たの と二人でやったが、ガ やる げ 和 オ てい L たし 五年からだが、 N ガ 九 った。大阪アルミ、ガス社たが、ガリ切りが巧かった 一線に分担して 7 ナイ 年 を受け ルクス 0 ザー 五月 た。 主 だ。田 で 君 あ 人で しば を \$ 6 組 所 知 知 って って 合の はあ しば危 相 談 0 斗 L 5 0

相沢 もさすがに本 で、

グル 東地 5 のように がな 方委員会に実質的 プと同 VC 702 った わった 資金活動以外の 0 ら、党 もの だろう。そ に終わ は VC プラ 傾 いって 党活動 っただ L V て旧 + S った。そ 主義 の中心 来の ろう。 的 小結 は次 な テ L て 第に 社 п リス この 小 関

T る 田所 は自協の 者新 ガ しは ス 聞して エの 組合の機関紙とし 「労働者新聞」に 刑 を終 ある。自協 充 て出 T 自連 ては た った 廃 0) 0

> 動きに対 L 山田健 だが。 で調 2 を残って た 田 て、共同斗争などで積極的に動い ~ 」ということができる。これ であり、自連新聞紙上でこれに批判的 合していたともいえる。だからこの辺 介が書記となり、田所が出 た実録「日本無政府共産党」(未定稿)の する観念的反対論をと いる資料で調べると 中核だった。自協 一自協 の組織が実質的には なえて 歌し は と自 た S いた て組合活動 0) ま「黒旗の下に が自協の田 のが VC. 0) 合 9 自協の 0 相 VC 関 旧 部 沢 だ 所 自

、斗うプロ レタリアは地に潜って変節しないと

E 思えるが に書き送っている。君には高橋君が義兄になる 新聞に出たというが、君の「ながれ」の中で政子さん では「日本自協史」の最後の章はことへ行かざる ない VC ね は大きな 。高橋君が一時中央委員だなんてあの当時の P や今日の話しで大体の筋が 心が あ るわけだ ね。 よめたよ から間 う VC

S でない 0 れは検察側のフレ 資料に 高橋光吉とある。 は党の組 第三部 1 の責任者だ。その下 ムアッ 織 関東地方委員会は 状況の一覧表が ブの 資 料 だ 書記長 VC 703 0 関東消 6 0 T 体 5

てい だけが だね 起して を与え 0) 一度誘 L でない 頭の 西 0 \$ 党 試行 の実 下にあり、 た 竹とある。が高繁、逸見、久保、 一部 てしまっ 中だけで 証 カン わ 錯誤だ とし 拠 ? n と資料に 際 韓国東を責任者とし大阪が逸見 方組織準備会の の活 2 た の文書だけ が断 て名を L 高橋君は党の存在を て押え 動があ た。その点では農青 ある夢を抱いて、それ ったということが もある 方委は伊藤・梅本・田 わっている。久保や佐 挙げ で農村 られ って T 責 本人 任者 T 弾圧をくらったのならまだ 5 たに それ 0 は が 7 できるが すぎな ナ系が がア 知 知ら も三年も って ナ系 を な 佐 竹が党を知っ 所 一掃 長 画いた作文書 いたかどうかっ 12 N 竹 は何 の入 八一掃 、二・三人 間 久保、神戸 の三人だ。 3 前 VC 勝手に れも党 冮 n を堀 0) た 0 6 実

> VC 合

か

n

た デ

策謀家が党と

5

うもの

へ変曲してい

0

自協が提議した

ア 0

ナキス が

٢ 連 0

総連盟とい

う意識分子の結

同じく 組織 応アミア

するも

别

火撃をも 革命

つ「黒旗

の下

VC

__ 考

7

ロのアイ

ア

。とれを掠

P

上り

0)

テロリスト

と共

産党

T

だけを残そ

う。

そ 0

> 0) 1

方 VC

向に

20

T

ン式に脱イ

デオ

ロギ

して戦線統

一を

のた

80

に斗うか

5

うととで、

組合運動

時代に斗う労働者

がど

3 ま C った は権 力 らあ の方が 大杉 0) の党 · 平沢計 元が戦前 よく 力 分子を抹殺す は 5 知 たってい つの場合も必 七の虐殺も のアナ系の る。 る。が 明治 総括なんか 時 0 要 無理に仕立 体制 VC 0 応 大逆事件も、 じて 0 7 必要から てて ないと 由 L

話し で、 この 問 題の から わ カュ 2 た 0) だが、

さん、

た自連でも

水沼

引君な

わなかったし誘われても乗らなかった。

にしても反対する、そのことがわ

カン

0

てい

しても

逸見

の吉

0

ちゃ

橋

-32 -

約半年ぐ 村が 沢

一見は

最初に

「黒色テロリスト

同盟」だ。そ

れ

相 ても たと

うと

とになるね。その発生当初からの経過をみ

加

わ

て「日

本無政府主義協

会」に改称

Ļ

植 1/

か

0

T 0

「日本無政府主義連盟」へ、この間は

もすると「日本

無政府

共

0)

産党 5 加 から

12 K

た

連盟と符節する。と 立替えする。連盟と 過だ。それが二ヶ月

とまでのアナ系の総結 いうととばは自協

合 提

50

経

ということでは当時みなが痛感していた。

るとアナ系はみな拒絶反応を示

した。

自

協の合同

ところが

党

党への幻想だけが結晶したのだろう。テロへの生態と、相沢の狙いが結びついて実態のないたころが二見らは、これで生活しようという掠屋と

たのか、あとから引き摺られたのか疑問だね。は出席していない。そのことは果して「党」に賛成しとの九年一月三〇日の「党」への改称の時には植村

にはねあがるインテリーとの相違である。 にはねあがるインテリーとの相違である。 にはねあがるインテリーとの相違である。 にはねあがるインテリーとの相違である。 にはねあがるインテリーとの相違である。

-34